

予報期間 6月18日から6月24日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 20日から22日にかけて、低気圧が朝鮮半島付近から日本海に進む。前線は、東シナ海から本州南岸を通過して日本の東へのびる。高気圧がオホーツク海をゆっくり南へ移動する。
- 23日から24日は、高気圧が千島近海に移動し、前線は本州南岸付近に停滞する。

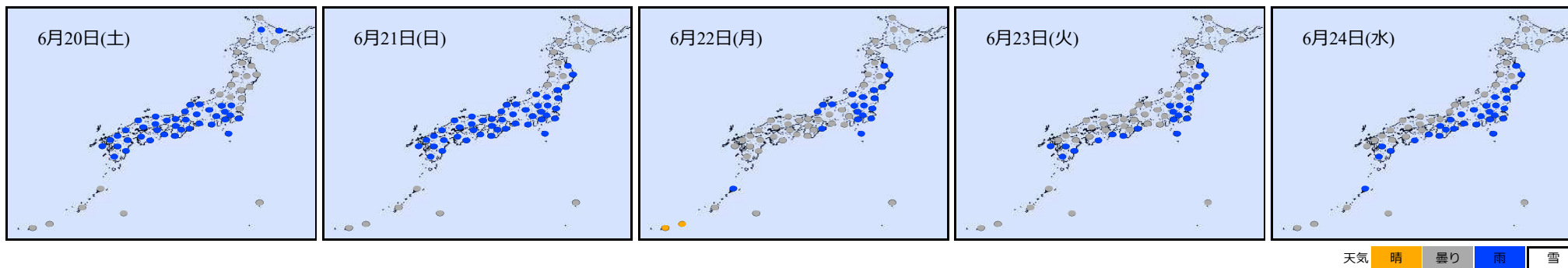
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 20日頃は、西日本では前線や暖かく湿った空気の影響で大雨となり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

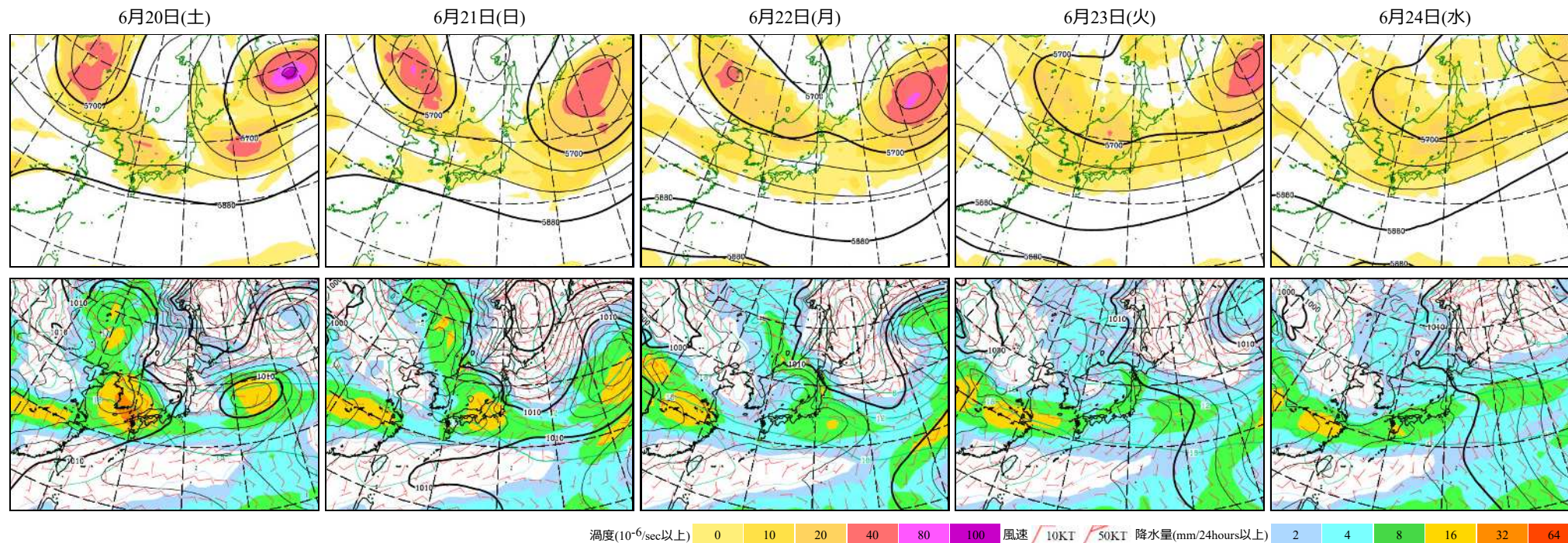
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

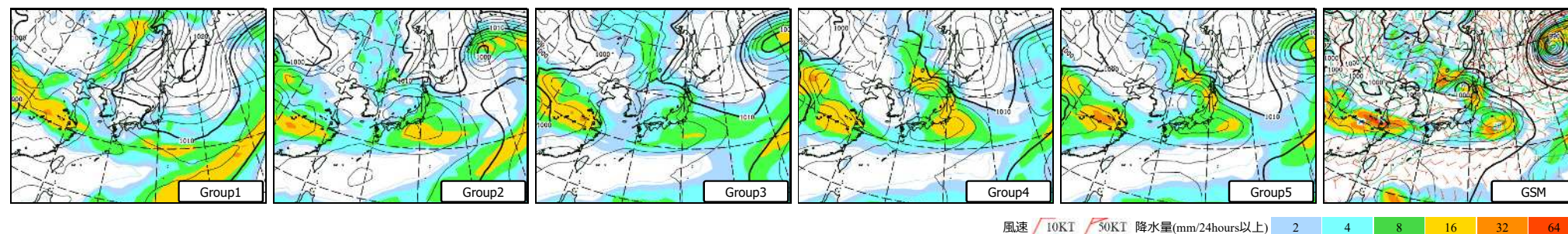


- 北日本から西日本にかけては、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、22日と24日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月22日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、20日から22日にかけて朝鮮半島から日本海を進む低気圧が明瞭となった。
- モデル間の差は、オホーツク海高気圧が現れていることは各モデルとも一致しているが、中心位置や勢力はばらついている。20日から22日頃にかけて、日本海を進む低気圧の有無に違いが見られ、前線の位置にも違いが見られる。
- スプレッドは期間の中頃から大きく、特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。